

来年度になってからではなく、今年度の内にしっかりと準備をして素晴らしいスタートを!

来年度スタート前に準備しておくべきこと!

- 学校の現状と課題の確認、学校全体での共有
- 今年度APの取組の成果と課題を学校全体で確認、来年度のAPの計画
- 校長としてこんな学校にしたいというビジョンとそのための戦略の概要
- 人事異動の内容確認と担任や校務分掌等の構想
- 校内辞令交付式や着任式の計画、準備
- APを核にした組織体制や推進体制の構想
- コロナ禍における学校行事等の方向性
- 感染症対策の内容と準備
- 始業式や入学式の実施計画
- 転出・転入児童生徒の確認、新入学児童・生徒の確認
- 外部支援者や団体の確保・確認、あいさつ回り等の計画
- 年度末、年度始め等、当面の行事予定の確認
- 年度末、年度始めの提出書類の確認
- 職種別勤務時間の割り振り、働き方改革の方針
- 学校ホームページの更新準備、情報発信の計画
- 校内研修や校内研究の方向性と計画
- 生徒指導や特別支援等の視点で気になる児童生徒に関する引継ぎの確認



今年度も残りわずかとなりました。今年度の総括も済まされて、そろそろ来年度の構想や準備を始められている頃ではないかと思います。このチェック表を参考にさせていただき、早めの対応をお願いします。第20号でもお願いしていますが、退職・転任の校長先生は、さらに早めの準備をお願いします。

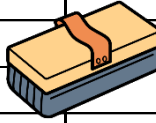
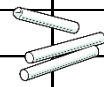
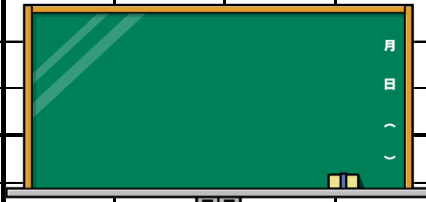
次のページに示していますのは、「学力向上に関するR-P-D-C-A別の取組状況自己診断表」です。学力向上に当たっても、検証改善サイクルを回しながら学校経営を進めてこられたと思います。今年度を振り返って、例示のようなことがどの程度取り組めたか自己評価し、来年度に生かして下さい。

学力向上に関する R—P D C A 別の取組状況自己診断表（例）

自己診断

とても まあ あまり まったく

第 2 2 号②



設問のカテゴリー		設問番号	設 問	とても	まあ	あまり	まったく
Research	多面的実態把握	(1)	子どもの学力や意識、行動を定期的に調査し、実態や変化を把握する。				
		(2)	保護者や地域の期待や要望を定期的に調査し、実態や変化を把握する。				
Plan	課題の洗い出しと焦点化	(3)	実態調査の結果や過年度の総括を踏まえて、学校の教育課題を洗い出す。				
		(4)	教育課題に優先順位を付け、取り組むべき課題を焦点化する。				
	教育目標設定	(5)	育てたい力や子ども像を学年に応じて具体的な行動レベルで構想する。				
		(6)	学校としての学力向上目標を具体的な数値目標として設定する。				
	行動計画策定	(7)	学力向上目標を達成するための具体的な行動計画を立てる。				
		(8)	学力向上の取組の成果を測るための評価規準・計画を策定する。				
Do	学校の教育力向上	(9)	組織的・計画的な教育の質的向上を図るカリキュラム・マネジメントを推進する。				
		(10)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。				
		(11)	授業改善を図る中で、ICT等を積極的に導入・活用する。				
		(12)	教師の指導力を高めるための研修や啓発の機会を充実する。				
	組織運営	(13)	学校全体の学力向上への取組を協議・推進する組織を作る。				
		(14)	保護者や地域住民、学生等に指導補助等の協力を依頼する。				
		(15)	会議の効率化などにより、子どもと向き合う時間を増やす。				
	教師間の協働	(16)	教科学習と総合的な学習を連動させた独自のカリキュラムを開発する。				
		(17)	複数の教師が協働・連携して子どもを指導・評価する体制を敷く。				
		(18)	優れた教材や指導案を教師間で共有したり、改善したりする。				
家庭学習支援	(19)	朝学習や宿題等を通して、学習の習慣化を身につけさせる。					
	(20)	家庭学習の手引きを作成するなどして、保護者の積極的な協力を得る。					
Check	成果の検証	(21)	客観的な指標と方法に基づいて、学力向上の取組の成果を測る。				
	授業評価	(22)	子どもや保護者、第三者による授業・カリキュラム評価を行う。				
	原因分析	(23)	達成された目標とそうでない目標を見極め、その原因を分析する。				
	課題洗い出し	(24)	総括を踏まえ、次年度に向けての教育課題を洗い出し、焦点化を行う。				
Action	補充指導	(25)	未達成の目標について、その単元や学期内にきちんと補充指導を行う。				
	授業改善	(26)	取組成果の評価を踏まえ、授業や教材、カリキュラムを改善する。				
	情報の引継ぎ	(27)	子ども各人の成長の履歴や今後の課題等を新旧の担任団で引き継ぐ。				
	説明責任	(28)	学力向上の成果や課題、今後の取組について保護者に説明する。				